

釜ヶ崎と住宅問題

調査資料紹介を中心として

原和博

以下に報告する資料は、1984年5月に行なわれたドヤ調査から得られたデータを簡単に整理したものである。この調査は、釜ヶ崎のドヤの諸現実を総合的に把握するために計画され、予定されている一連のドヤ調査の最初のものである。第1回目の調査として、この調査では主としてドヤの外的諸側面を明らかにすることとが目指されている。すなわち、現在のドヤの規模、建築構造、諸設備、築年数、料金などをできるだけ正確に把握することを目的としてこの調査は行なわれた。(調査項目については表I-1を参照)

調査の方法としては、ドヤの管理人、もしくは経営者に対するアンケート用紙に基づいた聞き取り調査という方法が用いられた。調査の主体(釜ヶ崎日雇労働組合)やその趣旨からして、多くの回答拒否(N. A.)が出るであろうことは最初から予想されていたが、確かにいくつかのきわどい(?)質問に対しては(たとえばドヤ代値上げ、防災設備などについての質問)、かなりのN. A.が出たが、しかし全体としての調査を損なうほどのものではなかった。ちなみに、聞き取りを試みた98軒のドヤのうち、まったく回答が得られなかったものは10軒であった。それゆえ、以下のデータは、今回調査された88軒のドヤについてのそれである。

なお、今回の調査ではその対象となったドヤはすべて、釜ヶ崎の中心地区である、萩之茶屋1-3丁目に存在しているドヤが存在しているのか、はっきりとはしていない。西成警察署が毎年出している「あいりん地区の実態」というパンフレットでは大体200前後のドヤがカウントされているようである。今回の調査では、釜ヶ崎地域全体を対象とするのではなく、その中心地区であり、また同時に日雇労働者の生活の中心であり密集地区でもある、この萩之茶屋地区を調査の対象地区として選び、そこに存在するすべてのドヤを調査することが目指されたのである。

以上のような意図のもとで、今調査は行われたのであるが、その結果得られたデータをどのように読み取り、分析するのかという作業は、いまだその途中にある。それゆえ、以下に提出されている資料も、ほとんど手を加えられていない生のデータである。N. A.票をはぶいたり、質問項目を並べかえたりして、幾分か見易くしただけである。わずかなコメントが付けてあるが、それも分析といったものではまったくない。

このように、私達の作業が遅々として進まないのに反して、釜ヶ崎のドヤ状況は激しく変化している。釜ヶ崎のメインストリートである銀座通りを歩いてみればそれはすぐにわかる。ここ1、2年がかつての古めかしいドヤはどんどん姿を消して、そのかわりにビジネスホテル風の豪華な外観のドヤが建っている。2年前に私達が調査したドヤのなかで姿を消したのものもあるようだ。新開西空港の建設や西字研都市をあてこんだ先行投資なのであろうか。不況の影響をまろに受けて、アオカンする労働者が増えている一方で、一泊二千元以上もするドヤがどんどん建設されている。こうした現実をどのようにとらえたらいいのだろうか。

先行する現実には追い付き、それを正確に分析しうる認識の力が要求されている。その手始めとして、まずはここに素材を提出します。なお、昨年(1983)の10月には第2回目の調査も行われました。そこでは、ドヤの利用者である労働者に対する聞き取り調査が行われました。近いうちにこの2回の調査結果に基づいた、ある程度の分析が提出される予定です。

1984年 釜ヶ崎ドヤ調査 調査対象一覧

ドヤ名	経営者	構造	築年数
1 八重旅館	金田	鉄筋4F	20
2 グリーンハイツ	*	***	7
3 萩荘	**	***	9
4 アール	東東	***	999
5 関西ルーム	*	***	5
6 ロール	**	***	15
7 河内屋ホテル	***	鉄筋6F	20
8 ナニワ	山口	鉄筋3F / 6層	20
9 ホテル一番	**	鉄筋4F / 8層	4
10 日進	伊藤	鉄筋5F	4
11 平和荘	藤谷	鉄筋3F	999
12 三光ウズ	泉田	木造2F	20
13 山翠園	尾下	木モル3F 6層	20
14 松竹荘	西山	木モル3F 6層	12
15 福富荘	宇津野	鉄筋5F	20
16 富士ハウス	湯口	***	15
17 よしくら	浜田	***	999
18 二見章	滝井	鉄筋3F / 5層	15
19 日章ヤル	藤田	木2F	25
20 よし蔵	吉田	***	999
21 高弘	倉高	***	15
22 弘陽	金山	木2 (一部3)	25
23 紫雲	本橋	鉄筋	20
24 かめや	山岡	***	13
25 白木屋	高岡	***	999
26 光洋	東岡	***	12
27 八城	岩上	***	999
28 ますや	田谷	***	4
29 宝ふね	上田	***	18
30 はぎ山	西田	***	18
31 立山	保田	***	20
32 はよと	吉田	木2F	20
33 は泉	東田	鉄筋3F	23
34 愛和	山中	軽鉄2F	20
35 不極	高橋	木2F	999
36 南源	高山	鉄筋2F	19
37 丸吉	山尾	木2F	5
38 協和	時大	木2F	27
39 仲し	島	木2F	13
40 とら	吉田	木2F	999
41 新之	吉田	木造	28
42 明光	川田	***	999
43 ホテル	古山	鉄筋	20
44 ホテル	山本	鉄筋	6
45 松屋	松本	***	1
46 元禄	東谷	木造	999
47 ニュウ	山尾	木造	20
48 キヨ	藤山	鉄筋	999
49 キヨ	山尾	鉄筋	10
50 末廣	高尾	鉄筋	16
51 霧島	新田	鉄筋	999
52 七福	山本	鉄筋	999
53 旅館		鉄筋	999
54		木モル	20

ドヤ名	経営者	構造	築年数
55 たかの屋	山本 茂	木造	20
56 ニュー銀座	高橋	鉄筋5F/6層	10
57 音羽	東谷	木造2F	20
58 若草	山田	木造2F	20
59 万葉	東谷	鉄筋4F	12
60 新光	山田	鉄筋5F	999
61 キング	山田	鉄筋5F	15
62 なると	山田	鉄筋5F	1
63 水都	十合	鉄筋3F	20
64 緑風荘	***	木造2F	999
65 きのくに	木原	鉄筋	20
66 かなめ	大塚 慶一	木造モル	20
67 わかまつ	外崎	鉄筋5F	0
68 すすみ荘	東谷 トミ	木造モル3F	25
69 福美館	**	鉄筋4F	999
70 天閣	古川 晃	鉄筋6F	999
71 昇月	東谷 トシミチ	木造	20
72 白水	倉田	***	20
73 都	宮地	***	999
74 錦翠	山下 サチ	***	29
75 菊屋	北川 サカオル	***	26
76 ニューコンパス	大島	***	999
77 ホワイトハウス	大島	***	10
78 シエル	北谷	***	10
79 七五三	中村	***	20
80 三笠	上田 道男	木造	20
81 はつね	時枝 静夫	鉄筋3F	23
82 きみや	上田 直之助	軽鉄5F	18
83 光盛	佐々木 元徳	木造2F	25
84 マルモト	大塚 慶一	鉄筋	14
85 かなめ	大塚 昭吉	木造3/軽鉄6F	34
86 ホーム関西	寺西	鉄筋6F	15
87 共栄	山田 博美	鉄筋6F	5
88 入船	タケ	木造2F	30

1) 調査項目一覧

今回の調査では以下の諸項目が調査された。

ドヤ名	所在地	経営者名	管理人名	建築構造	築年数
部屋総数	(その内訳)	最低料金	(その部屋の広さ)	中二階の有無	金網/鉄格子の有無
最高料金	(その部屋の広さ)	避難通路の有無	ボヤ/火災の有無		
消火器	火災報知器	エレベーター	内湯/冷暖房設備	娯楽室の有無	
テレビ	ガス	敷布交換の回数	トイレット・ペーパーの有無		
部屋掃除	害虫駆除	電話取次の時間	ドヤ証明/領収書を出すか		
門限の時間	客とのトラブルの有無	(その時の対応策)			
宿泊者の内訳		(その時の値上げ幅)			今後の値上げ予定
最近のドヤ代値上げの時期					

2) ドヤの規模

総部屋数の質問に回答した81ドヤの平均は78.5部屋、そのうち部屋の広さの内訳が判明した66ドヤの平均部屋数は73.4部屋、ここからすれば、釜ヶ崎におけるドヤの平均的規模は75部屋前後と考えられる。

ドヤの規模 (1)

総部屋数	件数	=	66
	合計	=	4,848
	平均値	=	73.4545454545454
	最大値	=	305
	最小値	=	4
内訳 (1 畳)	件数	=	66
	合計	=	660
(2 畳)	件数	=	66
	合計	=	1,529
(3 畳)	件数	=	66
	合計	=	2,455
(4 畳)	件数	=	66
	合計	=	122
(4.5 畳)	件数	=	66
	合計	=	44
(5 畳以上)	件数	=	66
	合計	=	4

3) しかしこのドヤの規模にはかなり大きなバラツキがあって、一方には部屋数300を超える巨大ドヤがあり、他方には10部屋もないドヤがあるといった具合である。そこで全体66ドヤを部屋数100以上の大規模ドヤ、99-50部屋の中規模ドヤ、49部屋以下の小規模ドヤの3グループに分類してみた。〔表ノドヤの規模(2-A)(2-B)(2-C)ノを参照〕

この三表からは、釜ヶ崎のドヤの一部屋の広さの中心が2-3畳であって、4畳以上の広い部屋はほとんどない、ということぐらいしかわからない。スペースの関係でこの資料集では省いたが、これらのドヤを築年数順に並べ替えてみると、あるひとつの傾向が見えてくる。築年数についての質問に回答した55ドヤを、築年数20年以上(32ドヤ)、19-10年(16ドヤ)、9年以下(7ドヤ)の3グループに分けて、総部屋数、最低料金およびその部屋の広さ、最高料金およびその部屋の広さ、のそれぞれの平均を求めると次のようになる。(単位は料金は円、広さは畳)

	総部屋数	最低料金 (その広さ)	最高料金 (その広さ)
築20以上	51.21	658 (2.2)	905 (3.0)
19-10	101.41	604 (1.7)	845 (2.5)
築9以下	93.71	1214 (2.8)	1571 (3.9)

上の表からわかるように、1ドヤあたりの部屋数が多い大規模ドヤは19-10年以前、すなわち1965-74年頃に建設されているのである。そこではもっぱら、部屋数の増大だけが追求されており、部屋の広さの面では、むしろ狭くなっている。料金もまったく上昇していない。低料金で劣悪な大規模ドヤがこの時期大量に建設され、これらのドヤが同様にこの時期大量に流入し始めた単身日雇い労働者を吸収していったのである。

ドヤの規模 (2-A)

ドヤ名	総部屋数	内訳 (1畳)	(2畳)	(3畳)	(4畳)	(4.5畳)	(5畳以上)
1 ニュール	305	0	0	300	0	0	5
2 マール	220	17	99	104	0	0	0
3 アール	191	50	69	0	72	0	0
4 みよし	178	0	160	18	0	0	0
5 かめ	150	0	0	150	0	0	0
6 新日之本	143	30	113	0	0	0	0
7 わかま	137	0	45	90	0	0	2
8 愛和	126	0	0	126	0	0	0
9 日進	124	0	0	123	0	0	0
10 ニュール	120	0	120	0	0	0	0
11 白木屋	111	0	0	111	0	0	0
12 白木屋	111	111	0	0	0	0	0
13 白木屋	107	0	0	101	0	0	0
14 ホーム	101	18	83	0	0	0	5
合計	2124	226	689	1123	72	12	12

長ととも、釜ヶ崎がそれまで古典的
 なるスラム街と変貌して、この変貌を根
 は同時に生活の場として、この変貌を根
 巨大な飯場であったのがこれらの大規模ドヤであ
 変貌でもあったのがこれらの大規模ドヤであ
 ったのではないだろうか。

これにたいして、最近10年のドヤ建
 設の状況はそれ以前とはすこし異なっ
 ているようである。先の表からもわかるよ
 うに、その規模はほとんど増大しておら
 ず、むしろ縮小の傾向さえ見える。それ
 に対して、顕著なのは一部屋の広さの増
 大と料金の上昇である。すなわち、一言
 で言えば、ドヤの高級化、ビジネスホテ
 ル(?)化の傾向である。この傾向は最
 初にも述べたように、この調査以後のこ
 こ2年ほど特に目覚ましく、その結果、
 表面的には釜ヶ崎は様相を一新しつつあ
 るとさえ見えるのである。

4) ドヤの料金

ドヤの規模と同様に、その料金にもドヤ
 ごとに大きなバラツキがある。以下のリ
 ストは、最低料金が1000円以上の高級(?)
 ドヤと、最高料金が700円以下のドヤの
 リストである。あわせてそれらのドヤの
 諸設備も示してある。

このリストから見ると、高いドヤと安
 いドヤとの違いは、部屋の広さとテレビ
 の有無だけである。築年数の欄からもわ
 かるように、最近の新しいドヤほどの料
 金が高くなっているのだが、これらの高
 級ドヤの内実はたとえば、その派手な一
 ビジネスホテル風の、あるいはラブホテ
 ル風の外観を別とすれば、単に部屋が幾
 分か広くなりテレビが備え付けられて
 いるというだけである。(もっともここ1
 -2年に建設されたドヤのなかには、冷
 暖房を完備したドヤも増えているよう
 だが、そのぶん宿泊料金も2000円台、
 3000円台へと上昇している)

(注) なおこれらのリスト中に出てくる
 "9/99/999"という数字は、そこ
 がN. A. であるということを示して
 いる。

ドヤの規模(2-B)

ドヤ名	総部屋数	内訳(1畳)	(2畳)	(3畳)	(4畳)	(4.5畳)	(5畳以上)
1 共栄	99	0	0	99	0	0	0
2 きみや	99	0	99	0	0	0	0
3 霧島	99	98	1	0	0	0	0
4 光洋	99	0	0	96	0	3	0
5 山翠園	96	96	0	0	0	0	0
6 よしのくら	95	0	95	0	0	0	0
7 ききのくら	90	0	90	0	0	0	0
8 松竹	90	0	70	20	0	0	0
9 新光	85	0	0	85	0	0	0
10 七五三	80	0	80	0	0	0	0
11 万葉	80	0	0	80	0	0	0
12 平和荘	78	30	48	0	0	0	0
13 よし蔵	75	0	0	75	0	0	0
14 富士ハウス	75	69	6	0	0	0	0
15 ホテル一番	70	0	0	70	0	0	0
16 泉荘	67	3	18	46	0	0	0
17 かなめ	60	0	0	60	0	0	0
18 はつね	60	0	0	55	0	5	0
19 はとや	60	10	50	0	0	0	0
20 口イヤル	60	0	20	40	0	0	0
21 日章	60	0	60	0	0	0	0
22 とらや	56	0	0	40	0	16	0
23 南極	56	0	0	56	0	0	0
24 高倉	55	0	0	55	0	0	0
25 河内屋ホテル	55	55	0	0	0	0	0
26 かなめ	54	0	25	25	0	0	0
27 はぎふね	54	18	17	17	2	4	0
28 水都	50	40	10	0	0	0	0
合計	2057	419	689	919	2	28	0

ドヤの規模(2-C)

ドヤ名	総部屋数	内訳(1畳)	(2畳)	(3畳)	(4畳)	(4.5畳)	(5畳以上)
1 入船	46	1	0	45	0	0	0
2 立山荘	42	0	0	42	0	0	0
3 源	40	0	0	28	9	3	0
4 二見	40	0	0	40	0	0	0
5 仲よし	38	0	29	9	0	0	0
6 元禄	35	0	0	35	0	0	0
7 丸吉	35	0	7	7	19	0	2
8 宝	35	1	0	0	0	0	0
9 たかの屋	34	0	18	16	0	0	0
10 八重旅館	34	0	10	24	0	0	0
11 萩荘	31	0	31	0	0	0	0
12 音羽	30	0	0	30	0	0	0
13 七福旅館	28	0	7	21	0	0	0
14 松屋旅館	27	0	0	27	0	0	0
15 不二	26	0	4	22	0	0	0
16 三光ハウス	25	0	25	0	0	0	0
17 福富荘	23	2	20	1	0	0	0
18 菊屋	21	0	0	21	0	0	0
19 白水	20	0	0	20	0	0	0
20 若草	20	0	0	0	20	0	0
21 かすみ荘	17	0	0	17	0	0	0
22 ますや	11	6	0	5	0	0	0
23 八城	5	5	0	0	0	0	0
24 光盛	4	0	0	3	0	1	0
合計	667	15	151	413	48	4	2

高額ドヤのリスト (最低料金が1000円以上)

ドヤ名	最低料金	(広さ)	最高料金	(広さ)	築年数
1 ナニワ	1000	2.0	1400	3.0	4
2 ホテル一番	1300	3.0	1500	3.0	4
3 光洋	1200	3.0	1600	4.5	4
4 立山荘	1000	3.0	1000	3.0	23
5 愛和	1400	3.0	2100	6.0	5
6 南極	1200	3.0	1200	3.0	13
7 協和	1300	3.0	2000	6.0	4
8 明光ハウス	1200	3.0	1600	6.0	6
9 わかまつ	1500	3.0	1700	3.0	0
10 白水	1000	3.0	1200	3.0	20
11 ニューコンパ	1000	2.0	1800	4.5	999
12 共栄	1400	3.0	1700	3.0	5

高額ドヤの諸設備 (最低料金が1000円以上)

ドヤ名	中二階	テレビ	娯楽室	内湯	冷暖房
1 ナニワ	1	2	1	0	9
2 ホテル一番	0	2	0	0	1
3 光洋	0	1	0	0	99
4 立山荘	0	2	0	0	0
5 愛和	0	2	0	0	0
6 南極	0	2	0	0	1
7 協和	0	2	99	0	3
8 明光ハウス	0	2	0	0	3
9 わかまつ	0	2	0	1	1
10 白水	0	1	0	0	99
11 ニューコンパ	99	2	0	0	0
12 共栄	0	2	0	0	3

5) 最後に、「高級」ドヤがふえつつある現在でも依然として存在している、「中二階のあるドヤ」と「金網/鉄格子のあるドヤ」のリストを示す。これらのドヤが防災上きわめて問題のあることは明らかであろう。これまで釜ヶ崎では何度かドヤ火災が発生し、その度に多くの労働者の生命が失われてきた。そのたびに、この「中二階」と「金網/鉄格子」が問題とされその撤廃が求められてきたのだが、それらは依然として残存している。(中二階のあるドヤが16、金網/鉄格子のあるそれが17)

このリストの築年数と総部屋数の欄からもわかるように、これらのドヤはその大部分が先に指摘した「大規模ドヤ時代」に建てられたものである。ここからも高度成長時代の釜ヶ崎の状況を窺うことができるだろう。地方から大量の労働者がここ釜ヶ崎に流れ込み、そしてその労働者を待っていたのがこれらのタコ部屋のような、あるいは宿桶のようなドヤであったのである。一方でこのようなドヤで多くの労働者が無残に殺されていった。そして他方で、このようなドヤに労働者を詰込むことによってドヤ資本家は肥太っていった。あの時代は、おそらく現在の大部分のドヤ経営者にとってはその資本の源蕃時代であったのである。そしてそうして蓄積された資本によって、昨今のキラビヤカなドヤが建設されているというわけである。

安いドヤのリスト (最高料金が700円以上)

ドヤ名	最低料金	(広さ)	最高料金	(広さ)	築年数
1 森荘	400	1.5	400	1.5	9
2 アール	300	1.0	680	2.0	999
3 河内屋ホテル	360	1.0	360	1.0	20
4 日進	650	2.0	650	2.0	999
5 平和荘	330	1.0	470	1.0	20
6 山翠園	600	1.0	650	1.0	12
7 福富荘	350	1.0	700	3.0	15
8 富士ハウス	350	1.0	600	2.0	999
9 よしくら	500	2.0	500	2.0	15
10 日章	600	2.0	650	2.0	999
11 高倉	650	2.5	700	3.0	20
12 弘陽	400	1.5	600	3.0	13
13 紫雲園	400	99.9	600	99.9	999
14 かめや	630	2.7	630	2.7	12
15 白木屋	370	1.0	370	1.0	999
16 八城	350	1.0	350	1.0	18
17 ますや	200	1.0	400	3.0	18
18 宝	470	1.0	470	1.0	20
19 はとや	550	1.0	700	2.0	999
20 松屋旅館	700	3.0	700	3.0	20
21 万葉	500	3.0	650	3.0	12
22 水都	500	1.0	600	2.0	20
23 かなめ	500	2.0	700	4.5	20
24 かすみ荘	650	3.0	700	3.0	25
25 七五三	600	2.0	700	2.0	20

ドヤ名	中二階	テレビ	娯楽室	内湯	冷暖房
1 森荘	0	0	9	0	9
2 アール	1	1	9	0	9
3 河内屋ホテル	1	0	9	9	9
4 日進	1	0	0	0	0
5 平和荘	0	0	0	0	0
6 山翠園	1	0	0	0	0
7 福富荘	1	99	0	0	0
8 富士ハウス	0	99	99	0	0
9 よしくら	1	99	0	1	0
10 日章	1	0	0	0	99
11 高倉	0	0	99	0	99
12 弘陽	0	99	0	0	99
13 紫雲園	99	0	0	0	0
14 かめや	99	0	1	1	99
15 白木屋	1	0	99	0	99
16 八城	0	0	0	0	99
17 ますや	0	1	0	0	99
18 宝	99	0	9	0	99
19 はとや	1	0	0	0	0
20 松屋旅館	99	99	99	0	0
21 万葉	99	0	0	1	99
22 水都	1	0	0	0	99
23 かなめ	0	0	99	0	0
24 かすみ荘	0	99	0	0	99
25 七五三	99	1	0	0	99

中二階のあるドヤ

ドヤ名	中二階	金網/鉄格子	築年数	総部屋数
1 プール	1		9	999
2 ロール	1		9	15
3 河内屋ホテル	1		0	20
4 ナニワ	1		9	4
5 日進	1		0	999
6 三光ハウス	1		0	20
7 山翠園	1		0	12
8 福富荘	1		1	15
9 よしくら	1		0	15
10 日章	1		0	999
11 白木屋	1		0	999
12 はとや	1		1	999
13 ホテルちとせ	1		0	999
14 ニュー銀座	1		1	10
15 水都	1		0	20
16 きのくに	1		0	20
合計	16			

金網/鉄格子のあるドヤ

ドヤ名	中二階	金網/鉄格子	築年数	総部屋数
1 福富荘	1	1	15	23
2 ロイヤル	0	1	15	60
3 はとや	1	1	999	60
4 協和	0	1	4	107
5 ホテル栄光	0	1	1	99999
6 ニュープラザ	99	1	10	111
7 末広	99	1	999	99999
8 七福旅館	0	1	20	28
9 ニュー銀座	1	1	10	305
10 音羽	0	1	20	30
11 万葉	99	1	12	80
12 キング	99	1	15	143
13 都	99	1	999	110
14 ホワイトハウス	0	1	10	169
15 シエル	0	1	10	81
16 きみや	0	1	18	99
17 光盛	0	1	25	4
合計				

(注) なおこの辺の事情については、ぜひ労務者渡世編集委員会編「労務者渡世」(風媒社刊)を参照されたい。

5) 以上、きわめて簡単に1984年5月におこなわれた第1回ドヤ調査からえられたデータの一部を紹介してきたわけだが、これらは全体のほんの一部分にすぎない。より詳細なデータと分析は、1985年の第2回調査の諸結果とあわせて、近いうちに発表する予定である。

*まず訂正をひとつ。本文三三ページ上段の左から十一行目は文意からも理解できるように「地主側」ではなく、「家主側」です。単純な間違いですので、お気付きの読者はたくさんおられることと思います。申し訳ありません。

本文は元来一九八三年夏の第一回釜ヶ崎労働者生活実態調査の集計作業から生まれてきたものです。この「住宅対策」に続いて「福祉行政」「労働行政」が準備されていますが、内容的にはきわめて不十分なものです。特に今回の場合、戦後の展開についての不十分性はともかくも、ドヤについては四つの宿屋営業取締規則の改定に目がいくばかりで、ドヤ主の対応についての目配りが不十分ですし、一方長屋については、法的な規制の動向へのアプローチが手薄であることは否定できません。第四次規則改正への解説文書が掲載された「社会事業研究」の同じ号には、不良住宅対策、特に無産階級へのそれが論議されています。このように種々の社会事業、社会政策の動向の中で、釜ヶ崎は置き去りにされたり、あるいは組み込まれたりして、現代に到るわけですが、その現実の姿を鮮明に描き出すにはほど遠い状態です。まさに「ノート」の域を脱しえない状態です。

最後に、第一次規則施行を目前にした段階（制定発布は本文でも触れたように一八八六（明治一九）年一月二十五日ですが、施行は翌八七（明治二〇）年四月一日となっていました）での木賃宿営業主の動向を伝える新聞記事を紹介しました。なおこれは一月五日朝日新聞に「木賃宿」と題して掲載されたものです。

目下南区日本橋筋即ち長町にて木賃宿を営業となす者等各々申合せ不日北平野町七八九丁目居を移し従前の如く其業を営む事に粗決せしよしにて此頃已に手を廻し同所の地所及び家屋等の買求めに着手したりとの事

（本間啓一郎）

*「アブレ」と「アオカン」の梅雨の季節があげ、今年も暑い夏が釜ヶ崎にやってきました。七月のW選挙で自民党圧勝ということの不快指数も倍加したようです。中曽根の軍拡路線の継続によって釜ヶ崎の状況の酷しさは一層増す気配です。

今回の「釜ヶ崎資料」（第二号）は釜ヶ崎の住宅問題を特集しました。一つは住宅に関する行政政策の歴史的考察（本間論文）ともう一つは「ドヤ」についての現状分析（原論文）です。いずれも力作であり、熟読され御批判願えれば幸いです。また釜ヶ崎を正しく理解する一助になればと思っております。

釜ヶ崎の日雇労働者にとって住宅の問題は、不安定就労

・低収入とともに大きな問題です。日雇労働者は通常「ドヤ」に寝泊まりしているわけですが、「ドヤ」は住居ではなく、あくまでも、「簡易宿泊所」、一時的止宿所にすぎません。したがって釜ヶ崎の日雇労働者は社会的・法的には住所不定者と取り扱われます。そのことから生じる不利益は数知れません。雇用保険・健保・生活保護の加入・受給にしても困難が生じます。また宿主との間にもしばしばトラブルが起こります。「ドヤ」を転々と変わる労働者もいれば、長年住みつく労働者もありますが、火災で焼死したり、焼け出されても何の保障もありません。近年「関西新空港」を当て込んだ「ドヤ」の建替ブームになっており、追い出しを食っても「居住権」をもたない日雇労働者は為すすべはなく、ただ追い出されるのみです。また建て替えブームは「ドヤ」賃の高騰をもたらしており、人口増加と労働者の階層分化の進む中で、新たな「ドヤ」・住宅問題を生む雲行です。

人間の基本的生存権の一つに属する住居の問題を取り上げる所以です。

なお引き続き、労働・福祉に関する行政施設・現状分析を次号以下に掲載する予定です。

(牛草英晴)

*「住宅」といっても、釜ヶ崎にあるのは「ビジネス・ホテル」「旅館」の類である。元来、ホテル・旅館というも

のは一時滞留者用の施設である。最も、普通のホテルであるならば、各部屋に洗面所・トイレがついており、食堂もあるから、金さえふんだんにあれば、ホテルで長期滞留して生活の拠点として使うこともできる。

しかし、釜ヶ崎のそれには客の側に長期滞留者が多いにもかかわらず、各部屋に水道・トイレの有るものはまれである。ようするに生活者の利用する空間としては不適切なものが多いのである。

ドヤ主は「高い」「住みにくい」などの苦情が出れば、「気にいらなければ、よそにいつてくれ」と突きはなしてすました顔をする。

「営業の自由がある」「泊まる所を選ぶ自由がある」そして「アオカンをしいられて死ぬ自由がある」

釜ヶ崎の店主たちは「釜ヶ崎の労働者は、どちみち稼いだ金を、酒かギャンブルに使いはたすのだから、ポツクってもいい」と思い込んでいるふしがある。

ドヤの入り口で、料金を差しながら「部屋あるでしようか」と聞く労働者に「ウム、何号室といいながら鍵を渡すドヤ主の姿は、かつての代官や封建領主を思わせるものがある。

さて、そのような現実に対してどのような闘いが開始されるべきであろうか。一つは行政へ、一つは直接ドヤ主へ。今号がそのことに役立てば幸いである。

(松繁逸夫)

これまでに火災が発生したことがあるドヤ

ドヤ名	総部屋数	築年数	中二階	金網／鉄格子	避難通路
1 ローレル	205	15	1	9	9
2 とらや	56	999	0	0	1
3 末広	99999	999	99	1	1
4 たかの屋	34	20	0	0	1

これまでにボヤが発生したことがあるドヤ

ドヤ名	総部屋数	築年数	中二階	金網／鉄格子	避難通路
1 河内屋ホテル	55	20	1	0	1
2 平和荘	78	20	0	0	0
3 よし蔵	75	25	0	0	1
4 はとや	60	999	1	1	1
5 源	40	999	0	0	1
6 新日之本	137	20	0	0	1
7 明光ハウス	99999	6	0	0	1
8 霧島	99	999	99	0	1
9 ニュー銀座	305	10	1	1	1
10 水都	50	20	1	0	1
11 かすみ荘	17	25	0	0	1
12 ホワイトハウス	169	10	0	1	99
13 光盛	4	25	0	1	0
14 ホーム関西	101	15	0	0	1